

## 将来ビジョン及び必要な取組・事業

<b>提案主体名</b>		日本土地建物株式会社(湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会事務局)			
<b>提案プロジェクト名</b>		懐かしい未来の里づくり ～湘南ひらつか・ゆるぎプロジェクト～			
<b>対象地域</b>	<b>都道府県名</b>	神奈川県			
	<b>市町村名</b>	平塚市（ 西部丘陵地域(大磯丘陵の一部) 吉沢地区/湘南ひらつか・ゆるぎ地区 )			
<b>① 関連する分野</b>		環境（ 低炭素、循環、生物多様性・生態系ネットワーク・生態系サービス、水・大気環境 ） 超高齢化（ 健康、ソーシャルキャピタル、生涯現役、生涯学習、安心安全 ） その他（ 地域活性化、社会的連帯感 ）			
<b>② 将来ビジョン(環境価値、社会的価値、経済的価値の創造に関する総合的な目標 (2050年を見据えた上での2020年、2030年の姿))</b>		※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。			
<p>・本地区には、平塚市で最も豊かな里山が残っている。年々、住民の高齢化や人口の減少により、地域コミュニティの活力が低下している。エネルギー源の石油への転換や外国産の木材の台頭により里山の利用価値が低下し、住民の生活と里山との結びつきが弱くなった。その結果、山林は荒廃しかつての耕作地も使われなくなり、今や誇るべき豊かで美しい里山の環境・景観・文化を次世代に引き継ぐことが難しくなっている。これは解決すべき地域問題である。この問題解決のための課題を乗り越えるために、産官学民が連携して、「人が関わってこそ」という観点を再認識して、里山の再生・保全・活用に取組むことにより、「日本の原風景としての里山」と共生する環境未来都市(まち)を創出し、そのまちを将来に渡って持続させようとするものである。</p> <p>・「人と里山の自然との共生」、「再生可能エネルギーを活用した低炭素社会の定着」、「高齢者層に対しての新しい健康なライフスタイルの提案」、「永続的な地域の活性化」、「新たな雇用機会の創出」を課題のコアに据え、「地域住民を主体としたエリアマネジメント」により「懐かしい未来の里づくり」を行うことを目標とする。</p>					
<b>③ 将来ビジョン(②に記載した目標の実現のための取組の基本的な考え方)</b>		※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。			
<p>・「懐かしい未来の里づくり」の実現に向けた取組の基本的な考え方は以下の通り。</p> <p>①人との関係が希薄化している里山を再生、再構築するために、自然と共生した生活圏を里山の中につくり、新たな住民の定住を促す(143haの里山の内、居住エリアやレジャー・レクリエーション・文化活動等のために整備するエリアは20ha未満を想定)。  ②日本に古くからある里山の循環システムを現代版に再構築し、新たな担い手(居住者)とともに、地域に関わるあらゆる主体(産官学民)をつないだコミュニティを構築する。  ③現在の「産官学民」の地域活性化の連携協定を更に発展・拡大させ、エリアマネジメントシステムを確立する。  ④注目されやすく、身近に感じやすい「首都圏の市街地近郊」というこの地域で、健康で魅力的なライフスタイルをこれまで里山との関係が希薄であった都市住民に発信し、定住人口及び交流人口を増加させる。  ⑤新たな担い手(居住者)が里山の恵みを受け、そのお返しとしての維持管理を身近に行えるように、里山の自然と共生できる居住・生活スペースを構築する。  ⑥ITを駆使した情報収集力に優れ、自然を愛する柔軟で元気な高齢者(アクティブ・シニア)に対し、自然と共生する新たなライフスタイルを提案する。  ⑦居住者及び来訪者に対して里山における自然活動・農的活動・レジャー・レクリエーション活動・文化活動等によって「自然と人のかかわり方」の場を創造する。  ⑧定住人口を増加させることにより交流人口も増加させ、新たな雇用機会を創出する。  ⑨安心安全なくらしと活動のために設置したコミュニティセンターやレジャー・レクリエーションセンターなどの共用施設等を非常時における防災・避難拠点として活用する。  ⑩太陽光・太陽熱・地中熱、そして間伐材を利用した木質系バイオマスなどを主体とした再生可能エネルギーを最大限に活用(地域としてのエネルギーの地産地消)し、エリア単位でのエネルギーマネジメントシステムを確立する。  ⑪アクティブ・シニアが地域住民等とのネットワークの中で、のびのびと生活出来る健康増進拠点を構築して、健康寿命を延ばす。結果として、医療費の削減を実現する。  ⑫植林されもはや管理されなくなって久しい針葉樹を伐採・活用することによって、広葉樹を主体とした生物多様性に富んだ里山への再生と、それを通して人と里山との関係の再構築を行う。</p>					
<b>④ 将来ビジョンの実現のために5年以内に必要となる具体的な取組・事業(技術・システム、サービス、仕組み等)</b>					
番号	取組・事業の名称 ※異なる名称を付けてください。	取組・事業の概要 ※500文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。	取組・事業の期間	実施主体・運営主体 ※複数主体の連名の場合は「」で区切って記入するとともに、それぞれの役割を( )内に記入してください。	価値、分野の種類 ※必要性がある場合、「○」を記入してください。
(1)	多様な主体による組織化と里山の管理・活用システムの構築	①産・官・学・民(既存地域住民と新たな担い手となる新居住者)による里山の保全・再生・活用・創出に取組む「協議会組織」「里山維持管理組織」「農業生産組織」「施設管理運営組織」等を組成・運営。 ②大学等の専門的・先端的な知的資源の活用。 ③自然活動、農的活動、レジャー・レクリエーション活動、文化活動等を通しての里山と人との適切な関係の回復。 ④地域コミュニティの増強、市民の交流促進、健康増進等を促すための空間の創造。 ⑤環境教育の場としてのピオトープ・グリーンベルト・アンダーパス等による「生態系の道」の整備。 ⑥里山再生過程における適切な針葉樹の伐採・活用による、広葉樹を主体とした生物多様性の回復。	実施中、継続して長期	日本土地建物、平塚市、東京農業大学、湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会(地元自治会傘下)	○
(2)	低環境負荷型の暮らしを営むための環境共生型宅地整備、分譲及びCO2ゼロ住宅の建築	①健康的に生涯現役で環境共生型ライフスタイルを実践する人々(アクティブシニア)の定住の場としての林間住宅地の開発整備、分譲。 ②里山環境の計画的保全と里山の管理活用活動の場・拠点の整備。 ③里山の環境を支え地域の活性化の向上に貢献する生活インフラの整備。 ④太陽光・太陽熱・地中熱、バイオマスなど、地域に賦存する再生可能エネルギーを活用した住宅の建築。 ⑤自然の風などを積極的に活用し、里山の環境を最大限に活かした住宅の建築。 ⑥高効率機器・設備の導入や高断熱仕様の積極的な採用による省エネルギー住宅の建築。	短・中期(3～10年)	日本土地建物、湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会(地元自治会傘下)	○

(3)	低環境負荷型の暮らしを支えるエネルギーマネジメントシステムの構築と循環型ライフを実現するためのゼロエミッションシステムの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>①まち単位でのITを利用したエネルギーマネジメントシステムの導入。</li> <li>②まち単位での低環境負荷型域内交通システム(電気自動車・プラグインハイブリッド車・先進的デマンドバス、蓄電池機能・再生可能エネルギー発電と組み合わせた充電スタンド、居住者等によるカーシェアリング等)の導入。</li> <li>③里山管理で排出される間伐材・剪定材等のバイオマスエネルギーを有効利用するためのシステムの構築。</li> <li>④住宅や施設から排出されるゴミ等の減量化・堆肥化・燃料化を進めるためのシステムの構築。</li> <li>⑤生活排水を再生、再利用するシステムの構築。</li> </ul>	整備:短・中期 運用:長期	日本土地建物、湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会(地元自治会傘下)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境価値:低炭素、循環、水・大気環境</li> <li>・経済的価値:地域活性化</li> </ul>	○
(4)	産官学民による「エリアマネジメント」	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域で展開する様々な活動や施設を統括的、持続的に管理運営し、PDCAサイクルを活用した良好な環境の維持、地域価値の向上のためのシステムの構築。</li> <li>②次世代へ引き継ぎ、コンセプトを維持していくシステムの構築。</li> </ul>	長期	日本土地建物、平塚市、東京農業大学、湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会(地元自治会傘下)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的価値:社会的連帯感</li> <li>・経済的価値:地域活性化</li> </ul>	○

**⑤ ④に記載した技術・システム等をインテグレートして実現するイノベーションの内容** ※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。

①産・官・学・民が連携して取組むこと。  
 ②持続的に責任を持って「事業としての里山再生」がおこなわれること。  
 ③旧来の石油エネルギーに依存しない、里山と共生した新(再生可能)エネルギーに依存したまちができること。  
 ④全国的課題である地域活力の低下に対し、産官学民の連携による「エリアマネジメント」によって里山再生の各種仕組みが実現されること。  
 ⑤かつて植林された針葉樹の適切な伐採・活用を通して、広葉樹を主体とした生物多様性に富んだ里山が再生し保全されること。